

科目名	生命倫理学						
科目名(英)	Bioethics						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	土持 貴志		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	脳死・臓器移植や安楽死・尊厳死、人工妊娠中絶や生殖補助医療など、医療における倫理上の問題を引き起こす様々な事例において、どのような議論が行われているかを検討する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					倫理学の基本的な知識を獲得し、倫理学とはどのような学問かを他者に説明できる。	
	○					ただひとつの答えが無いような状況において自らの意見を表明し、その根拠から説明できる。	
				△		他者と議論を行うことで、自らの意見を修正し洗練させることができる。	
	○					自らの意見を文章の形で表現できる。	
テキスト・教材 参考図書	波多江伸子、『考えよう! 生と死のこと』、木星舎、2016年 参考文献: 田中正人、『哲学用語図鑑』、プレジデント社、2015年 ジュリアン・バジーニ、『100の思考実験』、紀伊國屋書店、2012年、赤林朗編、『入門・医療倫理Ⅱ』、勁草書房、2007年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	倫理学とは何か				学んだことを基に、自らの考えをまとめてアウトプットするようにすること。	
	2	様々な倫理思想—功利主義、義務論、徳倫理				学んだことを基に、自らの考えをまとめてアウトプットするようにすること。	
	3	生命倫理学の基礎—医療の場にはどんな倫理的問題があるのか				学んだことを基に、自らの考えをまとめてアウトプットするようにすること。	
	4	生殖医療の問題—子供がほしいならどんな方法でも利用できるべきか				学んだことを基に、自らの考えをまとめてアウトプットするようにすること。	
	5	生殖医療の問題—いのちの選別は許されるか				学んだことを基に、自らの考えをまとめてアウトプットするようにすること。	
	6	生殖医療の問題 まとめ				学んだことを基に、自らの考えをまとめてアウトプットするようにすること。	
	7	脳死と臓器移植の問題—脳死体からの臓器摘出は認められるか				学んだことを基に、自らの考えをまとめてアウトプットするようにすること。	
	8	脳死と臓器移植の問題—再生医療に問題はないのか				学んだことを基に、自らの考えをまとめてアウトプットするようにすること。	
	9	脳死と臓器移植の問題 まとめ				学んだことを基に、自らの考えをまとめてアウトプットするようにすること。	
	10	死の問題—「死」とは何か、どう受容すべきか				学んだことを基に、自らの考えをまとめてアウトプットするようにすること。	
	11	死の問題—自殺はしてもよいのか				学んだことを基に、自らの考えをまとめてアウトプットするようにすること。	
	12	死の問題—安楽死・尊厳死は許容されるべきか				学んだことを基に、自らの考えをまとめてアウトプットするようにすること。	
	13	死の問題—死刑は存置すべきか、廃止すべきか				学んだことを基に、自らの考えをまとめてアウトプットするようにすること。	
	14	死の問題 まとめ				学んだことを基に、自らの考えをまとめてアウトプットするようにすること。	
15	まとめ						
評価方法	(1)リアクションペーパーの提出 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	アクションペーパー	○			○		20%
履修上の注意	授業中に発言を求めたり、生徒同士での議論を行ったりするので積極的な参加が求められる。自身や他者の意見がどのような根拠に基いているのかを意識すると議論が行いやすい。倫理的な判断(「○◎がよい」、「××をすべき)」を行う時、自分の判断がどのような根拠や価値観に基いているのかを反省することが問題理解の助けとなる。						

科目名	統計学								
科目名(英)	Medical Statistics								
単位数	2	時間数	30時間	担当者	高橋 義文				
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	作業療法学科 1年								
授業概要	統計学は、実験で得られたデータを客観的に解釈するために必要な知識である。本講義では、統計学で用いられる様々な分析方法を学ぶとともに、実際にデータを用いて分析して貰います。本講義終了時には、基本的な統計学の知識・技術を皆さんが身に着けていることが目標です。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○				統計学で用いられる様々な分析方法を説明できる。			
	○	○				データを用いて分析を行うことができる。			
テキスト・教材 参考図書	配付資料 参考文献: 統計学教育研究会編(2006)『らくらく統計学』, ムイスリ出版,								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	統計データの整理				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。			
	2	標本分布の値の特性値				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。			
	3	2次元データの特徴を表す特性値				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。			
	4	期待値と分散				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。			
	5	標本平均の分布				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。			
	6	標本分散の分布				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。			
	7	点推定と推定量の望ましい性質				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。			
	8	母平均の区間推定(1)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。			
	9	母平均の区間推定(2)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。			
	10	仮説検定の基本的な考え方				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。			
	11	平均値に関する仮説検定(1)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。			
	12	平均値に関する仮説検定(2)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。			
	13	分散に関する仮説検定				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。			
	14	度数・比率についての検定				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。			
15	まとめ								
評価方法	(1)授業の中で小テストを複数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(筆記)	○	○				80%		
	小テスト	○	○				20%		
履修上の注意	電卓を持参すること								

科目名	コミュニケーション学									
科目名(英)	Communication Studies									
単位数	2	時間数	30時間	担当者	仁田原 朋香					
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目						
対象学科・学年	作業療法学科 1年									
授業概要	コミュニケーション理論を学ぶことで、幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を具体的に理解し自ら考え、物事を進めていくことができる。さらに他者との関わりの中にも発生する事柄に対して、多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考する力を身につける。									
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:	△	※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				コミュニケーション理論の知識を理解し説明できる。				
	○	○				様々な場面におけるコミュニケーションの方法と重要性を理解し、説明できる。				
		○	○	○		コミュニケーションの基礎知識を踏まえつつ、場面に応じた適切なコミュニケーションができる。				
テキスト・教材 参考図書	宮原哲:新版 入門コミュニケーション論 松柏社 参考文献:末田清子・福田浩子:コミュニケーション学 松柏社 大森武子・大下静香・矢口みどり:仲間とみがか看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版(株) 山口美和:PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	コミュニケーション概論 コミュニケーションとは何か				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。				
	2	コミュニケーション基礎① メッセージの種類				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。				
	3	コミュニケーション基礎② ノイズの影響				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。				
	4	コミュニケーション基礎③ 様々な能力				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。				
	5	対人コミュニケーション① 会話のスタート				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。				
	6	対人コミュニケーション② 立場と認識				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。				
	7	対人コミュニケーション③ リスニング				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。				
	8	対人コミュニケーション④ 質問と連想				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。				
	9	個人内コミュニケーションと自己概念				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。				
	10	報告・連絡・相談				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。				
	11	対立処理				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。				
	12	パブリックコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。				
	13	応用① 医療現場とコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。				
	14	応用① 医療現場とコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。				
15	まとめ				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。					
評価方法	成績処理方法: (1)レポートを1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)コミュニケーション行動習熟度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	○					70%			
	レポート		○				10%			
	コミュニケーション行動習熟度		○	○	○		20%			
履修上の注意										

科目名	解剖学演習						
科目名(英)	Seminar for Anatomy						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	佐藤 敦子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	医療に携わるものは人体の構造を理解しておくことは重要である。 人体を構成する器 官系の概要、特に作業療法士として理解が必要とされる構造を機能と関連して学習する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					感覚器に関する構造、部位の名称、特徴を理解できる。	
	○					神経系の構造、発生、機能を理解できる。	
	○					人体を構成する諸器官の構造を理解できる。	
	○	△				触診可能な骨指標に正しく触れることができる、触診可能な筋を同定できる。	
テキスト・教材 参考図書	1. 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学(第4版). 渡辺 正人 監修. 廣川書店 2. あたらしい人体解剖学アトラス. 佐藤 達夫 訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考文献: 1. ネット解剖学アトラス(第5版) 相磯 貞和 訳. 南江堂 2. 日本人体解剖学 上・下巻(第19版). 金子 丑之助 原著. 南山堂 3. 入門組織学 牛木 辰夫 著. 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	感覚器系演習: 皮膚. 味覚器, 嗅覚器, 平衡覚器, 視覚器			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	神経解剖学演習①: 神経学総論, 神経系発生, 髄膜, 脳室, 脳脊髄液			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	神経解剖学演習②: 脊髄, 脳(大脳)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	神経解剖学演習③: 脳(間脳, 中脳, 橋, 延髄, 小脳)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	神経解剖学演習④: 脊髄神経			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	神経解剖学演習⑤: 脳神経			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	神経解剖学演習⑥: 自律神経			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	神経解剖学演習⑦: 伝導路			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	組織学演習①: 組織学総論			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	組織学演習②: 組織学各論(循環器系, 消化器系)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	組織学演習③: 組織学各論(呼吸器系, 泌尿生殖器系, 内分泌系)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	骨学演習①: 頭蓋骨, 脊柱の骨, 胸郭の骨			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	骨学演習②: 上肢の骨, 下肢の骨			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	動物形態学演習			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
15	体表解剖学演習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	生理学演習						
科目名(英)	Physiology ; Practice						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	坂口 博信 大津 隆一		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	本講義は実習をまじえながら、生理学の講義で学んだ生理学の知識をより深いものにするを目標にする。講義を受け教科書で勉強した知識は、実習の実験によって実際に体験することによって、本当の知識として身につけることができる。さらに、実習によって生理機能を計測し、実験データを処理し解析して、レポートを作成する方法を学ぶ。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎				中枢神経系の機能を説明できる	
	◎	◎				感覚系の機能を説明できる	
	◎	◎	◎	◎		実習を通して、様々な機能を体得し説明できる	
テキスト・教材 参考図書	カラー図解 新しい人体の教科書 上・下巻 講談社ブルーバックス 参考文献: コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	中枢神経系1 中枢神経				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	2	中枢神経系2(運動機能の調節1)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	3	中枢神経系3(運動機能の調節2)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	4	中枢神経系4(学習・記憶)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	5	実習 誘発筋電図、神経の伝導速度				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	6	感覚1(視覚)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	7	感覚2(聴覚)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	8	感覚3(嗅覚・味覚)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	9	感覚4(体性感覚)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	10	実習 体性感覚(2点弁別・重量感覚)				実習した内容を復習し、理解を深めること	
	11	実習 体性感覚(触圧覚・温度感覚)				実習した内容を復習し、理解を深めること	
	12	実習 随意運動の反応時間(光・音刺激)				実習した内容を復習し、理解を深めること	
	13	実習 脳波				実習した内容を復習し、理解を深めること	
	14	実習 心電図				実習した内容を復習し、理解を深めること	
	15	実習 呼吸量				実習した内容を復習し、理解を深めること	
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				50%
	実習レポート	◎	◎				50%
履修上の注意							

科目名	運動学演習						
科目名(英)	Seminar for Kinesiology						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	大内田 由美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に関する身体の構造と機能の関係を理解する。(各関節の構造と機能、歩行) ・運動学で得た知識を用いて運動障害の分別ができるようになる。(変形、異常歩行) ・運動の学習について理解する。(運動学習) 						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				関節の運動を関節包内運動やバイオメカニクスの知識を用いて説明できる。	
	○	○				運動器疾患で見られる典型的な症状を正常な運動と比較し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	1) 中村隆一・齋藤宏・長崎浩・基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版.2015. 2) 嶋田智明・平田総一郎 監訳・筋骨格系のキネシオロジー 医歯薬出版.2012. 3) 配布資料 4) 長谷公隆 編著:運動学習理論に基づくリハビリテーションの実践 医歯薬出版.2016 参考文献: 1) Frank H Netter(相磯貞和訳): ネット解剖学図譜 丸善株式会社.2001. 2) I A Kapandji (狹島秀男監訳): カバンディ関節の生理学 医歯薬出版.1999.						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	肩関節の構造と機能(上肢帯、肩甲上腕関節、胸鎖関節、肩鎖関節) 肩関節の構造と機能(烏口鎖骨間メカニズム、肩甲胸郭関節、第2肩関節)			資料・テキストを用いて復習		
	2	肩関節の臨床運動学 肘関節・前腕の構造と機能			Webテストの実施		
	3	肘関節・前腕の臨床運動学 手関節の構造と機能			Webテストの実施		
	4	手関節の臨床運動学 手指の構造と機能			Webテストの実施		
	5	手指の臨床運動学 手指の変形機序			Webテストの実施		
	6	上肢のまとめ 股関節の構造と機能(関節の構造、靭帯、関節の運動)			資料・テキストを用いて復習		
	7	股関節の構造と機能(股関節の安定に関与する因子) 股関節の臨床運動学			Webテストの実施		
	8	膝関節の構造と機能(関節の構造、膝蓋骨、関節半月、靭帯) 膝関節の構造と機能(関節の運動)			資料・テキストを用いて復習		
	9	膝関節の臨床運動学 足関節・足部の構造と機能			Webテストの実施		
	10	足関節・足部の臨床運動学 足の変形			Webテストの実施		
	11	体幹の構造と機能 体幹の臨床運動学			Webテストの実施		
	12	下肢のまとめ 正常歩行(歩行周期)			資料・テキストを用いて復習		
	13	正常歩行(歩行の決定因、床反力、歩行時筋活動) 異常歩行			Webテストの実施		
	14	運動学習(運動能力、学習の転移、運動パフォーマンス、運動技術、動機づけ) 運動学習(運動学習理論、運動療法で展開される運動学習の戦略)			Webテストの実施		
15	全体のまとめ			資料・テキストを用いて復習			
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト	◎					20%
履修上の注意							

科目名	人間発達学									
科目名(英)	Human Development									
単位数	2	時間数	30時間	担当者	小野 仁					
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○					
対象学科・学年	作業療法学科 1年									
授業概要	発達障害のリハビリテーションを実施するうえで基本となる発達過程を理解する。さまざまな発達領域における理論的枠組みとそれらが相互的に関係しあっている発達の様相性を小児期を中心に学習する。									
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				人間発達学の定義、関連用語を知り、人間発達学の意義を理解する。				
	○	○				発達理論の歴史とその変遷を知り、各領域の代表的な発達理論を理解する。				
	○	○				乳児期、幼児期、学童期における発達の特徴を理解する。				
テキスト・教材 参考図書	細田多穂 編 シンプル理学療法作業療法学シリーズ 人間発達学テキスト 南江堂 参考文献:(1)社団法人日本作業療法士協会監修:作業治療学3 発達障害、協同医書、2010 (2)上田礼子:生涯人間発達、改訂第2版 三輪書店、2012 (3)J.H.de Hass:乳児の発達一写真で見る0歳児一、医歯薬出版、1977									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	人間発達とは?				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	2	発達理論とその価値観;運動発達、認知・心理発達の視点から				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	3	発達理論とその価値観;行動発達、社会的発達の視点から				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	4	運動機能の発達;体格、姿勢の発達				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	5	運動機能の発達;胎児期～新生児期				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	6	運動機能の発達;胎児期～新生児期				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	7	運動機能の発達;幼児期～学童期				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	8	認知機能の発達;概論				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	9	認知機能の発達;ピアジェの認知発達段階				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	10	認知機能の発達;ピアジェの認知発達段階				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	11	情緒の発達;乳児期～学童期のパーソナリティの発達				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	12	社会性の発達;乳児期～学童期の日常生活能力の発達				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	13	言語の発達;乳児期～学童期				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	14	遊びの発達;乳児期～学童期				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
15	まとめ									
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	○	○				70%			
	小テスト	○	○				30%			
履修上の注意	※別途classiを活用して、毎講義後理解確認テストを実施します。									

科目名	病理学						
科目名(英)	Pathology						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	自見 至郎		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	ヒトの各器官を構成する組織の基礎的働きを知り、各臓器に発生する主だった疾病の成り立ちの機序と病態を理解する。疾病を先天異常、代謝障害、循環障害、炎症と免疫、腫瘍と大きく5項目に分類しながら、それぞれの特徴をとらえ、疾患の基礎的概 念を理解し、人に説明することができる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上で病理学において、病気の原因や病態を知り、説明できる。	
	○	○				様々な疾患を遺伝学的、構造的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に説明できるようになる。	
	○	○				細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進(1)第5版 医学書院 参考文献: 標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 病理学 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	生物学と病理学				資料・テキストを用いて復習する。	
	2	病理学概論				資料・テキストを用いて復習する。	
	3	病気の分類				資料・テキストを用いて復習する。	
	4	細胞の損傷と適応				資料・テキストを用いて復習する。	
	5	創傷治癒				資料・テキストを用いて復習する。	
	6	循環障害概論(1)				資料・テキストを用いて復習する。	
	7	循環障害概論(2)				資料・テキストを用いて復習する。	
	8	炎症と免疫応答				資料・テキストを用いて復習する。	
	9	アレルギー概論				資料・テキストを用いて復習する。	
	10	再生医療、感染症				資料・テキストを用いて復習する。	
	11	代謝障害				資料・テキストを用いて復習する。	
	12	遺伝障害と胎児障害				資料・テキストを用いて復習する。	
	13	腫瘍概論(1)				資料・テキストを用いて復習する。	
	14	腫瘍概論(2)				資料・テキストを用いて復習する。	
	15	まとめ				資料・テキストを用いて復習する。	
評価方法	成績処理方法: (1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	整形外科学 I									
科目名(英)	Orthopedic Surgery I									
単位数	2	時間数	30時間	担当者	前山 彰(福岡大学整形)					
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○					
対象学科・学年	作業療法学科 1年									
授業概要	・整形外科領域の疾患・治療法を理解する。・作業療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。・作業療法が関わる障害が、どのような疾患から起因するかを知る。・整形外科疾患の成り立ちを知り、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。・整形外科疾患の症状を理解することで、作業療法治療上でのリスク管理を理解する。									
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	目標									
	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他					
	○	○				リハビリテーションに必要な医学情報、病気の成り立ちを説明できる。				
	○	○				整形外科疾患から起因する、リハビリテーションに関わる障害について説明できる。				
	○	○				整形外科疾患の生理学的見解ができる。				
○	○				リハビリテーションの対象領域に多い、整形外科疾患の症状を説明することができる。					
○	○				リハビリテーション実施上の各疾患ごとのリスク管理を説明することができる。					
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学(最新版)医学書院 標準整形外科学(Standard Textbook)医学書院 参考文献:「標準整形外科学」(第12版)医学書院									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	整形外科基礎知識1(骨・関節の構造)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	2	整形外科基礎知識2(骨・関節の構造)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	3	運動器の評価および検査法1(整形外科的評価)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	4	運動器の評価および検査法2(整形外科的評価)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	5	整形外科治療法1(保存的治療)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	6	整形外科治療法2(手術治療)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	7	炎症性疾患(感染症・関節リウマチ)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	8	代謝性疾患、内分泌性疾患、退行性疾患(骨軟化症、痛風、骨粗鬆症など)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	9	先天性骨・関節疾患(代表的な疾患とその特徴)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	10	循環障害と壊死性疾患(骨壊死、骨端症など)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	11	循環障害と壊死性疾患(骨壊死、骨端症など)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	12	神経・筋疾患(脳性麻痺、神経麻痺)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	13	脊椎の疾患(脊柱の変形、奇形、椎間板ヘルニア)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	14	講義総括					これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。			
15	講義総括					これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	○	○				100%			
履修上の注意										

科目名	内科学 I						
科目名(英)	Internal medicine I						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	伊藤 実喜		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	即臨床に役立つ内科の基礎を学びます。講義の内容はほぼガイダンスに従いますが、随時最新医学情報を取り入れます。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					各疾患の特徴や病気の成り立ちを理解することができる。	
	○					医療現場の実情や新しい知見を知ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	診断と治療					
	2	症候学					
	3	循環器疾患 総論				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	4	循環器疾患 各論1				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	5	循環器疾患 各論2				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	6	呼吸器疾患 総論				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	7	呼吸器疾患 各論1				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	8	呼吸器疾患 各論2				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	9	消化器疾患 総論				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	10	消化器疾患 各論1				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	11	消化器疾患 各論2				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	12	肝胆膵疾患 総論				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	13	肝胆膵疾患 各論1				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	14	肝胆膵疾患 各論2				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎				100%
履修上の注意	居眠り学生には厳しく対応します。発表するときには大きな声でお願いします。国試対策として小問題プリントを行います。						

科目名	神経内科学 I						
科目名(英)	Neurological Medicine I						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	神経内科における基礎知識や各種疾患における特徴や評価などについて学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科における関連基礎知識を学び、具体的に説明・解説することが出来る。	
	○	○				各疾患・症状について特徴などを最低3つは記述出来る。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学:医学書院 PT・OT基礎から学ぶ神経内科学ノート						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	リハの総論。神経内科におけるリハビリ評価方法。			教科書に事前に目を通す		
	2	神経内科に必要な生理、病理、解剖学			神経内科に関連する解剖・生理・病理学について事前学習		
	3	脳XII神経(前編)			脳神経について復習		
	4	脳XII神経(後編)			脳神経について予習・復習		
	5	神経内科の検査方法。筋電図、筋生検、CT、MRIなど			神経内科の対象疾患における検査方法について事前学習		
	6	意識障害、記憶			意識・記憶に関して事前学習・復習		
	7	筋の萎縮、錐体路症状、中枢性麻痺と末梢性麻痺			各種症状について事前学習・復習		
	8	錐体外路と不随意運動(感覚経路)			各種症状について事前学習・復習		
	9	失調症の検査と診断			各種症状・検査などについて事前学習・復習		
	10	高次脳機能障害1(失認、失語、失行)			各種症状について事前学習・復習		
	11	高次脳機能障害2(失認、失語、失行)			各種症状について事前学習・復習		
	12	嚥下機能、気管切開、胃ろう			機能とその低下時の対応について事前学習		
	13	まとめ			講義全体について重要部分を確認		
	14	まとめ			講義全体について重要部分を確認・復習		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	臨床心理学						
科目名(英)	Clinical Psychology						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	富永 明子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	こころの問題を抱えた人やその家族についての理解と援助の方法を研究・実践する臨床心理学について、基礎的な知識・技法を学習し理解する。また、卒業後の現場において臨床心理学の知識を活かしていけるために、他者とのかかわりや自分自身についての思考・感情・言動をふり返り、理解する視点をもつ機会とする。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎				心理アセスメント(知能検査, 性格検査, 適性検査)を列挙できる。	
	◎	◎				発達および人格理論の種類と概要を説明できる。	
	◎	◎				各種心理療法の種類とその概要を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	「心とかかわる臨床心理 基礎・実際・方法」川瀬正裕・松本真理子・松本英夫(著)ナカニシヤ 出版 参考文献:「はじめて学ぶ人の臨床心理学」杉原一昭監修 渡邊映子・勝倉孝治編集 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	臨床心理学とは				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	2	人格理論①:精神分析理論、分析的心理学				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	3	人格理論②:自己理論、自己愛理論				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	4	発達理論①:分離一過期理論、対象関係論				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	5	発達理論②:漸成発達理論				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	6	心理アセスメント①:アセスメントとは、発達検査、知能検査				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	7	心理アセスメント②:人格検査(質問紙法)				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	8	心理アセスメント③:人格検査(投影法)、その他の検査				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	9	心理療法①:基本的態度、クライエント中心療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	10	心理療法②:精神分析療法、分析的心理学療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	11	心理療法③:遊戯療法、芸術療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	12	心理療法④:森田療法、家族療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	13	心理療法⑤:行動療法、認知行動療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	14	心理療法⑥:自律訓練法、集団精神療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	精神医学 I						
科目名(英)	Psychiatry I						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	諸江 健二		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	① 精神機能や精神疾患についての理解 ② 精神疾患の症状や治療・福祉などについて理解する						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神機能や精神疾患について説明できる。	
	○	○				精神疾患の症状や治療・福祉などについて説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	上野武治 著:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学:医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	三大精神病と3つの成因			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	2	精神機能の評価(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	精神機能の評価(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	統合失調症(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	統合失調症(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	統合失調症(3)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	7	統合失調症(3)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	8	感情障害(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	神経症性障害(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	神経症性障害(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	摂食障害、行動の問題、性の障害			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	人格の障害とDSM、ICD診断基準(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	人格の障害とDSM、ICD診断基準(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	これまでのまとめ			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	作業療法評価学Ⅰ						
科目名(英)	Introduction to OT Assessment Ⅰ						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	老川 良輔		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	リハビリテーションにおける評価とは何かを学習する。その中でも、面接・観察、その記録方法の概要を学習する。作業に焦点を当てた評価ツールを用いて、作業療法における面接・観察の視点を学習する。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法における評価の視点を説明できるようになる。	
		○	○			作業療法面接評価であるCOPM・OSA-Ⅱを使用し、作業上の問題を聞き出せるようになる。	
		○	○			作業療法観察評価であるACIS・VQ・AMPSを用いて観察視点を増やすことができる。	
	○	○				人の作業上の問題が生じている理由を、人間作業モデルの枠組みを使って説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	①オリジナルテキスト ②COPM・AMPSスターティングガイド(医学書院) ③作業に関する自己評価 使用者手引き(日本作業行動研究会) ④コミュニケーションと交流技能評価 使用者手引き(日本作業行動研究会) ⑤意志質問紙 使用者手引き(日本作業行動研究会) 参考文献:※その他の参考文献は、授業内資料でその都度提示していく。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	評価の意味と目的・・・作業療法評価とは何のために行うのか?				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	2	対象者の作業上の問題を知るための評価①(COPM概要)				次回小テストと評価演習を行うため、授業をよく聞いて理解すること。	
	3	対象者の作業上の問題を知るための評価①(COPM実施方法と演習)				小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと	
	4	対象者の作業上の問題を知るための評価②(OSA-Ⅱ概要)				次回小テストと評価演習を行うため、授業をよく聞いて理解すること。	
	5	対象者の作業上の問題を知るための評価②(OSA-Ⅱ実施方法と演習)				小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと	
	6	対象者の作業上の問題を知るための評価演習				COPMの評価演習を行うため、授業資料を準備しておくこと	
	7	対象者のコミュニケーションと交流技能を知るための評価(ACIS概要)				次回小テストと評価演習を行うため、授業をよく聞いて理解すること。	
	8	対象者のコミュニケーションと交流技能を知るための評価(ACIS技能項目)				小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと	
	9	対象者のコミュニケーションと交流技能を知るための評価(ACIS演習)					
	10	対象者の意志を知るための評価(興味チェックリスト・VQ概要)				次回小テストと評価演習を行うため、授業をよく聞いて理解すること。	
	11	対象者の意志を知るための評価(興味チェックリスト・VQ実施方法と演習)				小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと	
	12	対象者の作業遂行の質を知るための評価(AMPS概要)				次回小テストと評価演習を行うため、授業をよく聞いて理解すること。	
	13	対象者の作業遂行の質を知るための評価(AMPS運動技能項目と演習)				小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと	
	14	対象者の作業遂行の質を知るための評価(AMPS処理技能項目と演習)					
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを2回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎				50%
	小テスト		◎				20%
	実技レポート	◎		◎	○		30%
履修上の注意							

科目名	作業療法セミナー						
科目名(英)	Seminar for Occupational therapy						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	井本 理美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	OTとして中枢神経の解剖を学習し、その構造・働きを理解する。 中枢神経疾患を、学生自身が調べて学び、発表する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					中枢神経の構造や働きを理解でき、説明する事が出来る。	
	○	○	○			積極的に中枢神経系疾患について学び、説明し質問に対して答える事が出来る。	
	○	○	○	○		学習内容を発表することで、プレゼンテーション能力を高める事が出来る。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・病気が見える vol.7 脳・神経(メディックメディア) ・ぜんぶ分かる脳の事典(成美堂出版) 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	神経組織を構成するもの・小テスト				配布プリント復習	
	2	大脳皮質～小脳の構造・機能について・小テスト				配布プリント復習 各自発表準備	
	3	学生発表(脳血管障害)・小テスト				各自発表準備	
	4	学生発表(脳血管障害)・小テスト				各自発表準備	
	5	学生発表(脳血管障害)・小テスト				各自発表準備	
	6	学生発表(脳血管障害・水頭症)・小テスト				各自発表準備	
	7	学生発表(運動・感覚・自律神経)、錐体路について				各自発表準備	
	8	学生発表(運動・感覚・自律神経)、伸張反射について				各自発表準備	
	9	学生発表(末梢神経)・小テスト				各自発表準備	
	10	学生発表(末梢神経)・小テスト				各自発表準備	
	11	学生発表(神経変性疾患)・小テスト				各自発表準備	
	12	学生発表(筋疾患)・小テスト				各自発表準備	
	13	学生発表(認知症)・小テスト				各自発表準備	
	14	学生発表(認知症・てんかん)・小テスト					
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを複数回実施する。(2)学生による発表を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	○	○				10%
	発表	○	○	○	○		20%
履修上の注意							